

現代社会において、家庭の中でお仏壇がある、という家が段々と少なくなってきたようです。原因の一つは、少子高齢社会だともいわれています。核家族化が進み、地方から都会に出て仕事をし、地方に戻らずに都会暮らしが続くと実家のお仏壇を護っていくことが難しくなっていきます。

以前は、お仏壇は、家の跡を継ぐ人が相続をしたものですが、現在は違ってきています。そして、新しくお仏壇を求めるとい人の中には、自分の生活様式に合ったお仏壇を求め、古くからあるお仏壇を継承しないということが増えてきています。

元々、お仏壇は江戸時代、寺 <sup>てらうけ</sup> 請制度によりお寺の檀家となり、その <sup>あかし</sup> 証として家庭にお仏壇を置いたということが始まりと言われていました。宗 <sup>しゅうは</sup> 派によりお仏壇の色や形は様々ですが、全体的に金色に彩られたお仏壇、木目の浮き出ているお仏壇などが中心でしょうか。

曹洞宗では、黒 <sup>こくたん</sup> 檀や紫 <sup>したん</sup> 檀といった木材を主体とした材料で出来ているものが多くなります。また、現代仏壇といい、マンションや洋室に合うように作られたオーク材やチーク材を使った家具のようなお仏壇も存在します。色や形は違えどもお仏壇は、お寺の本堂を小さくして家庭に納めた物と考えて間違いありません。お仏壇の正面には本堂正面と同じように須 <sup>しゆみだん</sup> 弥 壇が設けられ、お釈迦さまを中央の上段にお祀りし、その右に大 <sup>だいほんざん</sup> 本 <sup>えいへいじ</sup> 山永平寺を開かれた道 <sup>どうげん</sup> 元禅師を、その左に大 <sup>だいほんざん</sup> 本 <sup>そうじじ</sup> 山總持寺を開かれた瑩 <sup>けいざん</sup> 山禅師をお祀りします。これを曹洞宗の三つの尊い仏様と書いて三 <sup>さんぞんぶつ</sup> 尊 <sup>ほんぞん</sup> 仏と申し上げ、ご本尊としてしています。このご本尊に菩 <sup>ぼだいじ</sup> 提寺の住職による開 <sup>かいげんくよう</sup> 眼供養を受けて初めて、仏さまや先祖を祀るお仏壇が完成するのです。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

曹洞宗のお参りをする作法は、まず、お仏壇の前に座り呼吸を<sup>ととの</sup>調え心を落ちつかせます。蠟<sup>ろうそく</sup>燭に火を灯し、静かにお線香に火をつけ、香炉<sup>こうろ</sup>にまっすぐ立てます。そしてお鈴<sup>りん</sup>を三度鳴らします。その後合掌し一礼し、「南無釈迦牟尼仏」（なむ しゃかむにぶつ）と三度唱えた後、再びお鈴を三度鳴らします。鳴らし終わるとまた合掌一礼します。お仏壇の前で、ご本尊さまとお線香と自分の合掌した手が一直線になる時、坐禅の姿と同じように身と心が調ってくるのです。そしてその姿は、ご本尊さまと先祖を想い、自らの命の尊さを思うという行為になります。

様々に移り変わる社会の中でも、お仏壇をお参りし、日々の生活の中において心の拠り処にしたいものです。

— 終 —